

事務事業及び予算の執行実績
(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立浜松西高等学校中等部

目 次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	16
3	学校施設の概要	17
4	在籍生徒調	18
5	入学志願者及び入学者数調	19
6	生徒の状況	20
7	県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	21
8	預金調	22
9	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	23
10	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	23
11	主要備品調	24
12	職員調	25
13	職員の年齢調	27
14	健康管理	28

□□□□□□

事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

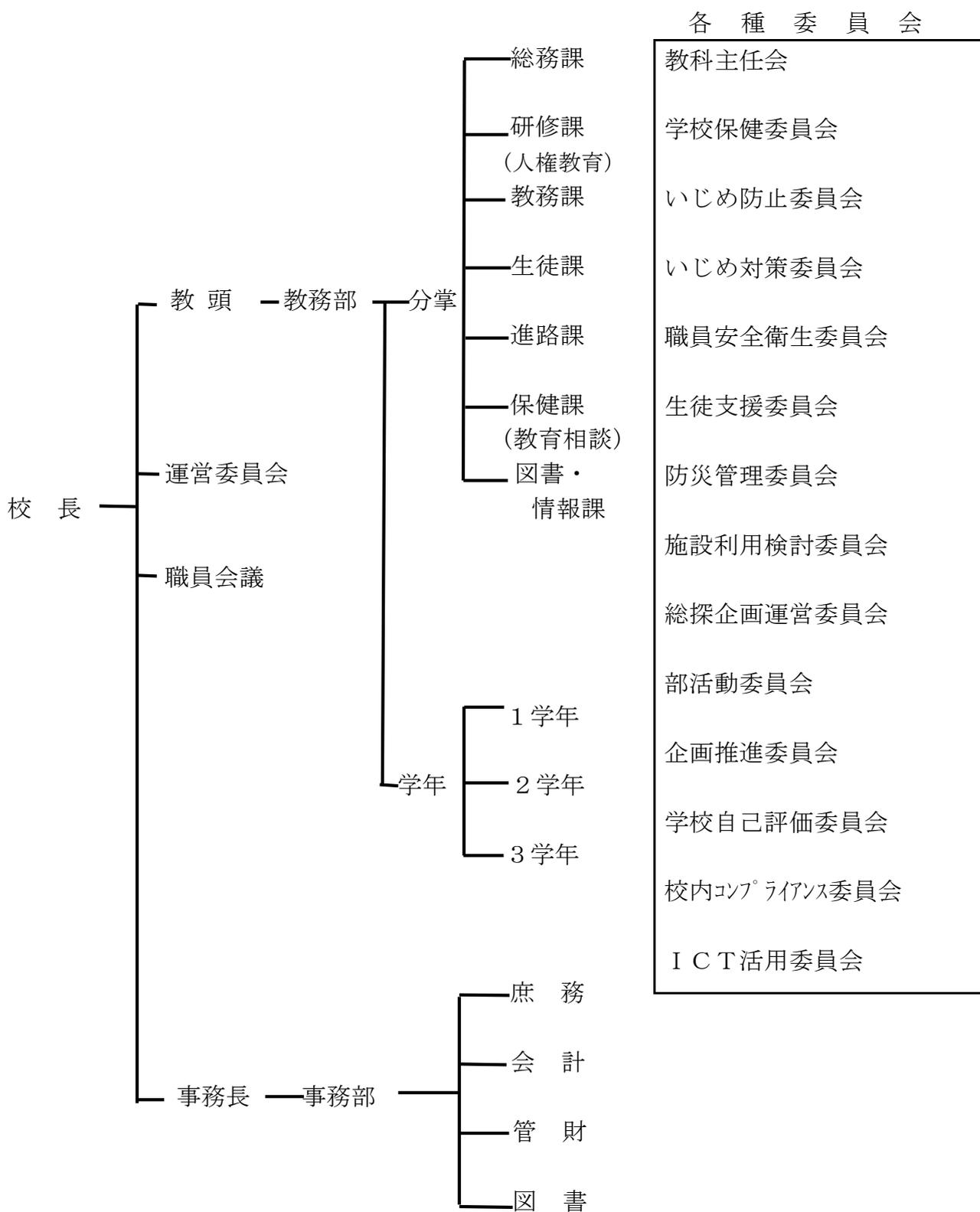
平成14年4月1日 静岡県条例第43号、静岡県立学校設置条例の一部を改正する条例により静岡県立浜松西高等学校中等部が設置される。

静岡県教育委員会規則第14号により静岡県立中学校学則が制定され、中等部第1学年定員が160人となる。

14年4月8日 静岡県立浜松西高等学校中等部開校・入学式を挙げる。
中高一貫教育を開始する。

令和5年4月1日 静岡県告示により中等部第1学年定員140人となる。

(2) 組織図
校務分掌表



2 目指す学校像

進取の精神に富む国際都市・浜松における中高一貫教育及び高校教育の拠点校として、すべての教育活動を通して、生徒に高い知性、豊かな心、たくましい力を育み、社会貢献への高い志を持つ人材及び国際社会のリーダーとして輝く人材の育成を目指す。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

【評価の基準】

A：十分目標を達成することができた

B：おおむね目標を達成することができた

C：あまり目標を達成することができなかった

D：ほとんど目標を達成することができなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	知的な好奇心・探究心を大切に、幅広い知識・思考力・表現力等、未来に生きる確かな学力を育成する。	○「授業の内容がよく分かっている」「授業は学力を伸ばすことに十分役立っている」各90%以上	全校 93.4% 1年 93.3% 2年 93.4% 3年 93.6% (昨年度 95.0%)	A	○シラバスに基づく授業の実施について合同学年会を通して促した。年度途中でも状況に応じて柔軟に対応し授業改善や次年度のシラバスづくりに役立てていくことができた。
		○「興味や関心を喚起される授業が行われている」90%以上	全校 96.4% 1年 94.8% 2年 98.5% 3年 96.1% (昨年度 96.9%)	A	○ICTを積極的に活用している。課題の設定に工夫をし、柔軟に学習形態を変化させて授業が行われている。
		○「予習→授業→復習の学習サイクルが確立できている」数英各70%以上	全校 93.2% 1年 95.5% 2年 94.8% 3年 94.3% (昨年度 93.9%)	A	○初期指導を実施し、生徒に予習授業復習のサイクルの確立を促した。
		○「家庭学習時間が120分以上」70%以上 「60分未満」0%	全校 47.9% 1年 41.3% 2年 46.0% 3年 51.8% 60分未満 全校 10.8%	C	●平日の120分以上は達成できなかった。 ○休日の調査では全体で81.0%が達成できている。
		○年間10冊以上読む生徒の割合90%以上	毎日の読書 80.4% 月1回以上の図書室の利用 26.6%	B	○朝読書もあるため読書する機会は多かった。 ●新着図書などの図書室の広報活動が不十分であった。
イ	地域社会・国際社会のリーダーとして必要なコミュニケーション能力・高い倫	○「自分の意見を相手にはっきり伝えることができる」80%以上	全校 88.7% 1年 88.1% 2年 89.6% 3年 88.5% (昨年度 86.3%)	A	○小グループだけでなく、大人数での活動でも意見が述べられる生徒を増やしていきたい。

	理観等の資質・能力を育成する。	○「相手の意見をしっかり受け止めることができる」 80%以上	全校 97.9% 1年 97.7% 2年 99.3% 3年 96.8% (昨年度 98.1%)	A	○授業内で積極的に取り入れている話し合い活動の成果であると考えられる。
		○「自分から進んで行動できる」 80%以上	全校 81.0% 1年 82.0% 2年 79.1% 3年 81.9% (昨年度 79.3%)	A	○一人一人に役割を与えて、責任をもって取り組むよう指導した。
		○「学校生活に満足している」 80%以上	全校 93.8% 1年 94.7% 2年 94.7% 3年 92.2% (昨年度 95.6%)	A	○生徒の知的好奇心を満たす授業や中高で交流できるような行事、一人一人を大切にする教員集団を目指していく。
ウ	生命に対する畏敬の念や異なる人々を受け入れる優しさを育てるとともに、防災や安全に関する意識を高める。	○「相手の立場や意見を尊重している」 90%以上	全校 98.6% 1年 97.8% 2年 99.3% 3年 98.8% (昨年度 99.1%)	A	○人間関係づくりプログラムやピアサポートトレーニングを今後も継続的に実施し、充実させていきたい。
		○「自他の生命の大切さについて、主体的に考えている」 80%以上	2年 94.1%	A	○思春期セミナーで考えることができた。 ○セミナーや薬学講座、ASEを通して自分自身を大切に思う気持ちやその方法について学ぶことができた。
		○思春期セミナー、薬学講座、ASEを各1回実施	実施できた。	A	○外部から講師を招き、専門的な知識と経験に基づいた講座を開くことができた。
		○いじめに関する研修を2回以上実施する。	実施できた。	A	○校内での研修に加えて、教育委員会主催の研修を受けた教員が全職員に対して報告と共有を行った。
		○いじめアンケートを3回以上実施する。	実施できた。	A	○回答に対して迅速に対応することを心がけた。また継続して注意観察を行い、状況を確認した。
		○月1回以上生徒指導報告会を実施する。	実施できた。	B	○月2回の実施ができた。 ●見守りが必要な生徒の共有を図ったが、中等部全体への共有をもう少し迅速に行う。
		○エピペン講習会・救急法を実施する。	実施できた。	A	○年度当初に該当生徒について共通理解を図り、具体的な対応について研修した。
		○防災マニュアルポケット版の携帯率100%	全校 99.4% (昨年度 98.9%)	A	○数字的には高い水準で横ばいとなった。引き続き携行意識の向上に努めていく。

		○「地震等の災害時の対応（行動）について理解している」 90%以上	全校 87.9% 1年 85.0% 2年 85.8% 3年 92.2% (昨 年 度 82.9%)	B	●国内で地震が多く発生しているので、もう少し具体的な動きについて確認をしていきたい。
		○防災に関する職員研修を実施する。	実施できた。	A	○第1回防災訓練時の地区別集会時に、担当地区の危険箇所チェックなどを行った。
		○交通マナーに関する苦情0件、交通事故0件	バスマナーについての苦情1件 「自転車のルールや公共交通機関の乗車マナーを守っている」99.5%	B	○今後も継続的に指導していく。
エ	自分の幸福を追求するだけでなく、社会の発展に積極的に貢献しようとする意欲をもつ生徒を育てる。	○「学校行事以外でボランティア活動をした」 70%以上	全校 31.8% 1年 39.5% 2年 31.3% 3年 25.8% (昨 年 度 38.3%)	C	●学校行事や部活動、サタクラといった活動もあるので、休日の参加が厳しい状況もうかがえる。
		○「困っている人がいれば手助けをすることができる」 90%以上	全校 95.7% 1年 93.2% 2年 97.0% 3年 96.8% (昨 年 度 95.4%)	A	○登下校の際など社会の人と場所と時間を共有する機会も多いので、今後も周囲の状況を見て動くことのできる生徒を育てていきたい。
		○「総学が問題解決能力を高め、進路探究に役立っている」 80%以上	全校 87.9% 1年 88.8% 2年 92.5% 3年 94.2% (昨 年 度 91.9%)	A	○調べたり、追究したりする中で社会を知る機会となっている。また発表の場も設けられているので、それに向けての準備を通して学びにつなげていくことができている。
		○「校則等の決まりを守って生活している」 90%以上	全校 97.9% 1年 97.0% 2年 98.5% 3年 98.1% (昨 年 度 98.9%)	A	○生徒課と学年が連携しながら対応することができた。 ○生徒がルールについて考える機会を今後も設けていく。
		○「規則正しい生活をしている」 90%以上	全校 85.5% 1年 82.0% 2年 87.3% 3年 87.0% (昨 年 度 89.3%)	B	○SNSの利用なども含め調査しながら家庭と連携して健康に過ごせるように声をかけていく。

オ	目標の実現に粘り強く取り組むたくましい心と体を育成するとともに、生徒の主体的な取組を通して自主・自律の精神を育み、生徒が主役の明るく規律ある学校づくりを進める。	○「目標を達成するまでねばり強く取り組むことができる」80%以上	全校 82.5% 1年 87.3% 2年 81.5% 3年 78.7% (昨 年 度 81.8%)	B	●学年が上がるほど数値が下がっている。学習への抵抗感を払拭できるように声かけや補充学習などを進めていきたい。
		○「学習でわからないことは調べたり聞いたりして解決している」80%以上	全校 92.4% 1年 88.0% 2年 93.4% 3年 94.8% (昨 年 度 94.5%)	A	○放課後やサタクラでわからないところの解決や身につけていない分野の補充学習を行った。
		○「校内美化(清掃等)に前向きに取り組んでいる」90%以上	全校 93.1% 1年 91.0% 2年 90.2% 3年 97.4% (昨 年 度 94.3%)	A	○積極的に取り組んでいる。
カ	系統的・組織的な進路指導を通して、一人一人の夢と志を可能とする進路を実現する。	○講演会等年間2回以上の実施	実施できた。	A	○PTAやNPOの協力を受けながら、外部から講師を招いて、生徒が興味をもつ講座を複数開講した。
		○県学力診断調査で8割以上の得点が取れる生徒80%以上	1年 59.8% (昨 年 度 63.0%) 2年 49.2% (昨 年 度 23.0%) 3年 32.5% (昨 年 度 36.0%)	C	●1・2年生では平均点が200点前後であったが、目標数値には遠く及ばなかった。 ●3年生は150点未満の生徒が10%いたので、個別での学力補充の必要がある。
		○「進路に関する情報や指導を十分受けている」70%以上	全校 80.6% 1年 61.2% 2年 87.9% 3年 89.1% (昨 年 度 82.5%)	A	○適切なタイミングで進路通信を発行することができた。 ●1年生の実情に合った進路情報も探っていきたい。
		○「3年間または6年間を通した進路指導計画について知っている」70%以上	全校 65.9% 1年 41.7% 2年 64.1% 3年 88.3% (昨 年 度 73.6%)	B	○3年生は9割近くの回答を得られた。 ●1・2年生への周知が喫緊の課題である。機をとらえて紹介をしていく必要がある。
		○大学教員などの外部の方から話を聞くことで進路意識が高まっている。70%以上	全校 64.4% 1年 44.0% 2年 51.1% 3年 63.2% (昨 年 度 64.4%)	C	○各学年の実態に合わせた進路講演会を実施することができた。 ●大学教員からの話は2,3年生でのみ行った。

キ	生徒を鍛え、生徒の自己実現を支援することができる、高い指導力をもつプロの教師集団を目指す。また、組織を支える教職員一人一人のワークライフ・バランスの保持・向上に努める。	○公開授業と年2回以上の授業見学100%。	実施できた。	A	○中高交流しての授業見学も進められた。
		○授業リサーチ実施。	実施できた。	A	○高校の授業も見学し中高連携を意識した授業が行えるように今後も研修を深めていく。
		○計画的・意図的な研修会の実施、外部の研修会に積極的に参加する。	実施できた。	A	○オンライン研修・法定研修を含め、県や市から紹介された研修に多くの教員が参加することができた。
		○ICTを活用した授業の実践および共有が促進される。	実施できた。	A	○日常的に教員同士で指導方法や授業改善の交流や共有が行われていて、個の技能も高められていた。
		○教科主任者会で情報共有や意見交換が行われる。	実施できた。	A	○中高の垣根を越えて、教科ごと日常的に情報交換が行われている。
		○「学校に信頼することができる教師がいる」80%以上	全校 91.8% 1年 87.3% 2年 96.3% 3年 95.5%	A	○教室や廊下での様子を観察しながら声かけ、適切な支援・指導を今後もこころがけていきたい。
		○管理職からの声掛け100% ○月80時間以上の時間外勤務従事者5%以下 ○月1回以上の定時退庁	定時退庁、振替取得のアナウンスをし、定時退庁は年間で10回実施。 月80時間以上（平均）の時間外勤務従事者 4名 17.3%	C	●時間外勤務従事者は業務改善もあり、昨年度の22.2%より減少はしているが、該当者の固定化もあり、分掌等で調整できるようにしたい。 ○振替取得について積極的に公開しながら依頼をして取りやすい環境づくりに努めた。
ク	「魅力ある学校づくり」を進め、中高一貫の特色を生かした信頼される教育体制の充実に努める。	○「シラバスから授業の年間計画が分かる」80%以上	全体 79.3% (昨年度 86.7%)	B	●特に1年の認知が低く64.9%であった。教科担任だけでなく学級担任からも指導をしていきたい。
		○初期指導でシラバスを活用し、年1回見直しを行う。	実施できた。	A	○年度途中でも状況に応じて柔軟な変更を依頼し、授業改善や来年度のシラバス作りに役立っている。
		○中高教員の乗り入れ8人以上	12人 社会・理科・音楽・保健体育・家庭・英語	A	○高校での学習を見据えた授業内容の展開、中等部からの継続的指導ができた。
		○生徒支援委員会年6回以上	実施できた。	A	○定期的実施し、悩みを抱える生徒の早期把握、早期指導のために、職員間で情報共有を行っ

					た。
		○「3年間または6年間を通した進路指導計画について知っている」80%以上 ※カと同じ内容	全校 65.9% 1年 41.7% 2年 64.1% 3年 88.3% (昨年度 73.6%)	B	○3年生は9割近くの回答を得られた。 ●1・2年生への周知が喫緊の課題である。機をとらえて紹介をしていく必要がある。
ケ	コンプライアンスを遵守するとともに、情報の発信を積極的に行い、生徒・保護者・地域の人々から信頼される学校経営に努める。	○「学校の教育活動に信頼感を抱いている」保護者 90%以上	全校 94.2% 1年 93.2% 2年 93.1% 3年 96.1% (昨年度 95.0%)	B	○今後も家庭と連携して教育活動を進めていく。
		○ホームページ年間更新100件以上、アクセス数50,000件以上	アクセス 旧 HP54,000件 新 HP17,000件	B	○リニューアルについては担当の尽力で無事に進めることができた。 ●更新機会が少なかったため、更新を増やし、小中学生にとって魅力的なHPにしていく。
		○「学校説明について分かった」参加者 90%以上	よくわかった 89.9% わかった 10.1%	A	○会場が変わり二部制で実施した。在校生の紹介発表を中心とした内容で好評であった。
コ	教育目標を達成するため、各目標具現化の柱の遂行に係る適切な財務執行を図る。	○節電等経費削減の周知を徹底し、光熱水費使用量を、令和3年度を基準に削減する。	昨年度からの削減量 電気 4.9% ガス 39.9% 水道 0.4%	A	○夏季の猛暑への対応を行いながら冬季に節電を実施していく。
		○監査、検査等での指摘事項0件	指摘・注意事項0件	A	○適正に事業・処理が行われた。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	知的好奇心・探究心を大切に、幅広い知識・思考力・表現力等、未来に生きる確かな学力を育成する。	○年間指導計画に基づく効果的な授業と指導の充実に努める。 ○「何が分かるか」「何ができるようになるか」が明確な授業を行う。 ○単元構成や課題提示の工夫、導入の工夫などを通して、生徒の知的好奇心や探究心を掻き立てるような授業を行う。 ○計画的に学習指導を行い、家庭学習を質・量ともに充実させるとともに授業→復習の学習サイクルを確立させる。	○「授業の内容がよく分かっている」「授業は学力を伸ばすことに十分役立っている」各90%以上 ○「興味や関心を喚起される授業が行われている」90%以上 ○「授業→復習の学習サイクルが確立できている」数・英各70%以上 ○「家庭学習が充実している」80%以上

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
		○図書委員会による広報、「西高図書百選」を活用し、読書への意欲を高める。	○「毎日読書ができている。」 80%以上
イ	地域社会・国際社会のリーダーとして必要なコミュニケーション能力・高い倫理観等の資質・能力を育成する。	○アウトプットで終わる単元構成や意図的な交流活動を積極的に設ける。 ○ICTを積極的に活用するとともに、主体的な学びと対話を重視した学びを充実させ、生徒の意欲とコミュニケーション能力を高める。	○「自分の意見を相手にはっきり伝えることができる」 80%以上 ○「相手の意見をしっかり受け止めることができる」 80%以上
		○授業、特別活動、部活動等において、生徒一人一人が役割を持ち、責任を持って取り組むことで、行動力、主体性、自律心を育む。	○「自分から進んで行動できる」80%以上 ○「学校生活に満足している」80%以上
ウ	生命に対する畏敬の念や異なる人々を受け入れる優しさを育てるとともに、防災や安全に関する意識を高める。	○行事等の後には振り返りを記述、掲示することで、互いの思いを共有できるようにさせる。 ○毎週の道徳の授業を大切にし、タイムリーな題材で、心を豊かにする教育を行う。 ○思春期セミナー、薬学講座を実施する。 ○ASEを活用する。 ○いじめの未然防止に努める。 ○スクールカウンセラーとの密接な情報交換を行う。	○「相手の立場や意見を尊重している」90%以上 ○「自他の生命の大切さについて、主体的に考えている」80%以上 ○思春期セミナー、薬学講座、ASE（2回）を実施 ○いじめに関する研修を2回以上実施する。 ○いじめアンケートを3回以上実施する。 ○月1回以上生徒指導報告会を実施する。 ○エピペン講習会・救急法を実施する。
		○中高合同でエピペン講習会・救急法を行う。	○防災マニュアルポケット版の携帯率100% ○「地震等の災害時の対応（行動）について理解している」90%以上 ○防災に関する職員研修を実施する。
		○大規模地震に対応する能力を育てるための防災教育の充実を図り、防災マニュアルポケット版を常時携帯させる。 ○大規模災害発生後の残留生徒・避難住民への対応の諸課題を整理し体制を整備する。	
		○バスマナーなどの登下校における交通マナーについての指導を年間10回以上実施し、マナーの向上を図り、安全意識を高める。	○交通マナーに関する苦情0件、交通事故0件

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
エ	自分の幸福を追求するだけでなく、社会の発展に積極的に貢献しようとする意欲をもつ生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア体験活動への参加を奨励する。また、地域等の活動や職場見学・体験等を通して社会と自己との関わりに関心を持たせ、奉仕の精神を涵養する。 ○チャレンジリストの実施や体験学習・リーダー育成講座等への参加を促し、情報を提供したり、「西山台チャレンジサポート事業」の活用を推奨したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ボランティア活動や地域の活動に参加した」 70%以上 ○「困っている人がいれば手助けをすることができる」 90%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間を通して課題解決や探究活動への主体的・創造的な態度を育て、自己の在り方・生き方への考えを深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「総学が問題解決能力を高めたり、進路探究に役立っている」80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○西高等学校中等部生としての誇りを持ち、爽やかな挨拶、正しい服装、時間厳守等の基本的な生活習慣の定着とマナーの向上を図る。 ○昇降口であいさつ指導を行う。 ○学年集会等の実施により、マナー、服装等の指導を共通理解の下に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「校則等の決まりを守って生活している」90%以上 ○「規則正しい生活をしている」90%以上
オ	目標の実現に粘り強く取り組むたくましい心と体を育成するとともに、生徒の主体的な取組を通して自主・自律の精神を育み、生徒が主役の明るく規律ある学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動や学校行事等の活動に主体的に取り組む態度を育成し、何事にも全力で最後まで粘り強く取り組むように指導を行う。 ○生活ノートから家庭での学習状況を把握し、十分でない生徒へは随時個別面談を実施、指導、助言を行うとともに、保護者と連携し、生徒の取組を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「目標を達成するまでねばり強く取り組むことができる」80%以上 ○「学習でわからないことは調べたり聞いたりして解決している」80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ○清掃に一生懸命取り組むように指導するとともに、主体的に取り組む姿勢を育てる。また、生活環境を整える習慣を確立させる。 ○特別清掃日を設定し、環境整備活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「校内美化（清掃等）に前向きに取り組んでいる」 90%以上
カ	系統的・組織的な進路指導を通して、一人一人の夢と志を可能とする進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○『進路資料』（進路指導計画）で進路意識向上を図る一方、土曜講座、大学見学や「進路講演会」等で夢や志を育てる。 ○基礎学力の向上や学習意欲、教養を高める土曜講座を行ったり、夏季課外を実施したりして、授業と家庭学習を基軸とした学力育成の取組を的確に支援する。 ○模擬試験の結果分析を基に対応策を講じ、事前・事後指導を充実させる。 ○「職場見学」や「宿泊訓練」等を通 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会等年間2回以上の実施 ○県学力診断調査で8割以上の得点が取れる生徒 80%以上 ○「進路に関する情報や指導を十分受けている」 70%以上 ○「3年間または6年間を通した進路指導計画について知っている」70%以上 ○大学教員などの外部の方から話を聞くことで進路意識が高まっている。 70%以上

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
		して、物事に主体的・創造的に取り組む態度を育てる。また自己の在り方や生き方について考えを深めさせる。 ○進路情報を適切に生徒や保護者に伝える。	
キ	生徒を鍛え、生徒の自己実現を支援することができる、高い指導力をもつプロの教師集団を目指す。また、組織を支える教職員一人一人のワークライフ・バランスの保持・向上に努める。	○公開授業・授業見学を通して授業力の向上及び中高の授業交流の推進を図る。また、授業リサーチを通し授業改善を推進する。 ○教科指導力向上のため、外部の研修会（オンライン含む）に参加する。 ○ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ授業を実施する。 ○観点別学習状況評価について研究する。 ○家庭・地域との連絡を密にする。 ○昼休みや休み時間でも、教室や学年廊下での様子を観察しながら、適切な声かけをする。	○公開授業と年2回以上の授業見学100%。 ○授業リサーチ実施。 ○計画的・意図的な研修会の実施、外部の研修会に積極的に参加する。 ○ICTを活用した授業の実践および共有が促進される。 ○教科主任者会での情報共有や意見交換が行われる。 ○「学校に信頼することができる教職員がいる」80%以上
		○定時退勤日（基本は水曜日）の実施を奨励する。 ○こまめに声掛けを行い、月80時間以上の時間外勤務従事者を減らす。	○管理職からの声掛け100% ○月80時間以上の時間外勤務従事者5%以下 ○月1回以上の定時退庁100%
ク	「魅力ある学校づくり」を進め、中高一貫の特色を生かした信頼される教育体制の充実に努める。	○指導、進路指導、総学の6年間シラバスに基づく指導の充実に努めるとともに、初期指導でシラバスを活用し、年1回見直しを図り改善する。 ○授業、部活動における中等部職員と高校職員の兼務・人事交流を活性化させ、一貫教育を推進する。 ○中高合同で生徒支援委員会を行う。	○「シラバスから授業の年間計画が分かる」80%以上 ○初期指導でシラバスを活用し、年1回見直しを行う。 ○中高教員の乗り入れ 8人以上 ○生徒支援委員会年6回以上
		○6年間を通じた進路指導を行う。 ○高3が中3を指導する先輩チュートリアル、高3担任による中3の面接指導を実施する。	○「3年間または6年間を通じた進路指導計画について知っている」80%以上
ケ	コンプライアンスを遵守するとともに、情報の発信を積極的に行い、生徒・保護者・地域の人々から信頼される学校経営に努める。	○教育活動の見直しと改善を図るために、学校運営協議会において意見聴取を行い、その結果を公開する。	○「学校の教育活動に信頼感を抱いている」 保護者90%以上
		○教育活動の紹介と情報提供のために、コンプライアンスの遵守に配慮したホームページの内容の充実と迅速な更新を行う。	○ホームページ年間更新100件以上、アクセス数50,000件以上
		○学校説明会やオープンスクールの内容・日程改善を図り、広報活動の充実を図る。	○「学校説明について分かった」参加者90%以上

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
コ	教育目標を達成するため、各目標具現化の柱の遂行に係る適切な財務執行を図る。	○電気使用量等、経費削減の徹底と学校経営予算の計画的、効率的な執行を行う。 ○法令、コンプライアンスを遵守した適正な事務処理を行う。	○節電等経費削減の周知を徹底し、光熱水費使用量を、令和3年度を基準に削減する。 ○監査、検査等での指摘事項0件

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	<p>1 教職員の業務改善 ICT活用と業務の精選、タイムマネジメントの推奨を行い、課題の洗い出しと改善、実践につなげる。</p> <p>2 中高連携による指導の充実と拡充 (1) 授業の相互乗り入れ (2) 中高合同部活動の推進</p>	<p>1 自動採点システムを全教科で導入した。それに伴い全職員に周知と研修を行い、業務の軽減につなげた。捺印の省略、会議のペーパーレス、文書のデータ化を更に進めることもできた。今後は、時間外勤務時間を減らしていくために分掌の分担や更なる業務の精選を目指していきたい。</p> <p>2 (1) 中→高：3人、高→中：7人が情報共有をしながらそれぞれ教科指導を行っている。 (2) 中高合同部活動として7部活が活動している。そのため高校教員による練習指導や引率が可能となり教員の負担軽減にもつながっている。また中3の2学期以降の高校部活動への入部や体験が円滑になり、柔軟な対応をすることができた。部活動の在り方について議論がすすんでいるので情勢をみながら対応していけるようにしたい。</p>
令和7年度	<p>1 教職員の業務改善 ICTの活用、タイムマネジメントの推奨を行い、実践できるところから導入していく。</p> <p>2 中高連携による指導の充実と拡充 (1) 授業の相互乗り入れ (2) 中高合同部活動の推進</p>	<p>1 貴重品ロッカーを教室に設置した。設置するまでは学級担任が登校後、貴重品を一斉に集め、職員室へ運び、下校時に生徒に戻すことを毎日行っていた。朝と放課後の教員の業務を大幅に減少することにつながった。 教職員用のパソコンも入れ替えられ、起動時間も短縮されている。また生徒の欠席連絡もメール連絡を推奨し保護者の協力を得ている。電話対応時間も短くして事務室や職員の業務改善につながっている。</p> <p>2 (1) 中→高：3人、高→中：7人が情報共有をしながらそれぞれ教科指導を行っている。 (2) 7部活が合同で活動している。そのため、高校教員による練習指導や引率が可能となったり、中3の2学期以降の高校部活動への入部や体験が円滑になったり効果を上げている。部活動の在り方について議論がすすんでいるので情勢をみながら対応していけるようにしたい。</p>

5 教職員について

(1) 異動状況

(単位：人)

区分	本 務 職 員										臨時・会計年度任用職員				合 計	
	教 育 職 員					行 政 職 員					本 務 計	非常勤講師	部活動指導員	スクール・サポート・スタッフ		臨時・会計年度任用職員計
	校長	教 頭	教 諭	養護教諭	小 計	事務長	主 任	主 事	小 計							
退職者																0
転出者			5		5						5					5
昇任者																0
転入者			5		5						5					5
新任者																0
昇任者																0
差引増減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 現員数

(単位：人)

本 務 職 員										臨時・会計年度任用職員				合 計
教 育 職 員					行 政 職 員			本 務 計	非常勤講師	部活動指導員	スクール・サポート・スタッフ	臨時・会計年度任用職員計		
校長	教 頭	教 諭	養護教諭	小 計	事務長	主 事	小 計							
(1)	1	21(7)	1	23(8)	(1)	1	1(1)	24(9)	3	1	1	5	29(9)	

() : 兼務外数

(3) 健康管理について

教職員健康診断の完全受診を図り、要精密検査者の再受診を徹底し、全教職員の健康管理に留意した。

また、職員安全衛生委員会を毎月開催し、健康管理医の指導のもと、教職員が健康で安全かつ快適な執務ができるよう衛生管理者等による職場巡視を行うとともに、職員の意見や要望を聴取し、良好な職場環境の確保に努めている。

さらに、授業に支障のない範囲内で積極的に年次有給休暇等を活用するよう教職員を啓発し健康増進、ストレス解消等のリフレッシュに努めている。

(4) 教職員の研修について

ア 授業改善・授業力向上

(ア) 令和6年度

a 目的

将来を見据えたアクティブラーニングの充実と課題の共有

b 内容

観点「思考力・判断力・表現力等」に鑑み、日常の授業で思考・表現活動を多く取り入れるとともに、課題を共有してその質を高める。また、それらの活動をとおして生徒の学習改善、教員の授業改善へ繋げていく。

(イ) 令和7年度

a 目的

将来を見据えたアクティブラーニングの充実と課題の共有

b 内容

観点「思考・判断・表現」が重視されていることを踏まえて、日常の授業で心掛ける点を意識し、思考・表現活動の質を高める取組を実施した。ロイロノートを活用する機会もそれぞれの授業で増え、教員同士の情報交換も頻繁に行われ、授業改善が進められている。

イ 校内研修会等

(ア) 令和6年度

a 校内研修

(a) 目的

教職員の資質能力と生徒指導力の向上を図る。

(b) 内容

生徒の学習改善や授業理解、教員の授業改善に役立てるために、学習者の立場から研修に参加することを心がける。そのためにも全教員が研究授業を参観し生徒のあらわれを把握した上で、生徒の学びの事実を基に、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて研修する。

中等部生徒の実情をとらえて、機を逃さずに情報を集め、寄り添うことができるように、教員一人一人の力量を高められるようにする。これからの時代に求められる力の一つである「人間関係作り」のプログラムを1年にわたって仕掛けていき、スクールポリシーの一つであるリーダーシップと行動力を兼ね備えた生徒の育成を目指していく。

(イ) 令和6年度

a 校内研修

(a) 目的

教職員の資質能力と生徒指導力の向上を図る。

(b) 内容

学校全体の研修会でも「発達障害」についての講演を聞いたり、大学の先生を招いて人間関係作りのプログラムを行ってもらったり、生徒理解を深めることに主眼をおいた研修を進めている。生徒指導の情報共有も密に行って、先手の指導を心がけている。

6 防災対策について（令和6・7年度）高校と共通

(1) 危機管理

緊急事態を未然に防止するよう生徒指導に努めている。万一の緊急事態に備え危機管理マニュアルの改訂を実施し、全職員に「危機管理の心得、緊急時の対処方法と職員の役割」を周知徹底し、生徒の防災マニュアルポケット版携帯について点検を行っている。

(2) 防火対策

学校火災を未然に防ぐことに努めているが、万一火災発生の際には、生徒の生命・身体の安全とともに、建築物等教育財産の被害の軽減を図るための防火対策等を立てている。火災報知機、電気設備等の点検を行い、機能の維持に努めるとともに、令和6年度には落雷により破損していた非常放送設備の改修を行った。

(3) 地震対策

令和7年7月の津波警報、9月の暴風警報など、生徒が学校に在籍しているタイミングで警報が発令されたこともあり、その対応の確認を行った。その際は、保護者に対応を敏速に伝達するため、災害時一斉メール配信システムを活用した。

また、地震発生時の防災訓練及び南海トラフ地震臨時情報の覚知訓練を行い、生徒の避難・集合訓練を実施した。5月の訓練では、全校生徒で地区ごとに分かれ教室残留時の食料等備蓄の確認を行った。また、避難経路の図上訓練として、登下校時、通学途上や部活動で使用する校外活動場所で活動中に大地震が発生した場合を想定して、通学路の危険箇所についての情報共有、地元の避難所の場所の確認などを行った。

- ・令和6年度：5月22日（水）、8月28日（水）に実施
- ・令和7年度：5月21日（水）、8月28日（木）に実施

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条、第5条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第45条、第46条、第47条、第48条、第49条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立中学校学則 中学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 いじめ防止対策推進法
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 義務教育費国庫負担法（第2条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 静岡県情報公開条例 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条）

□□□□□□

学校施設の概要

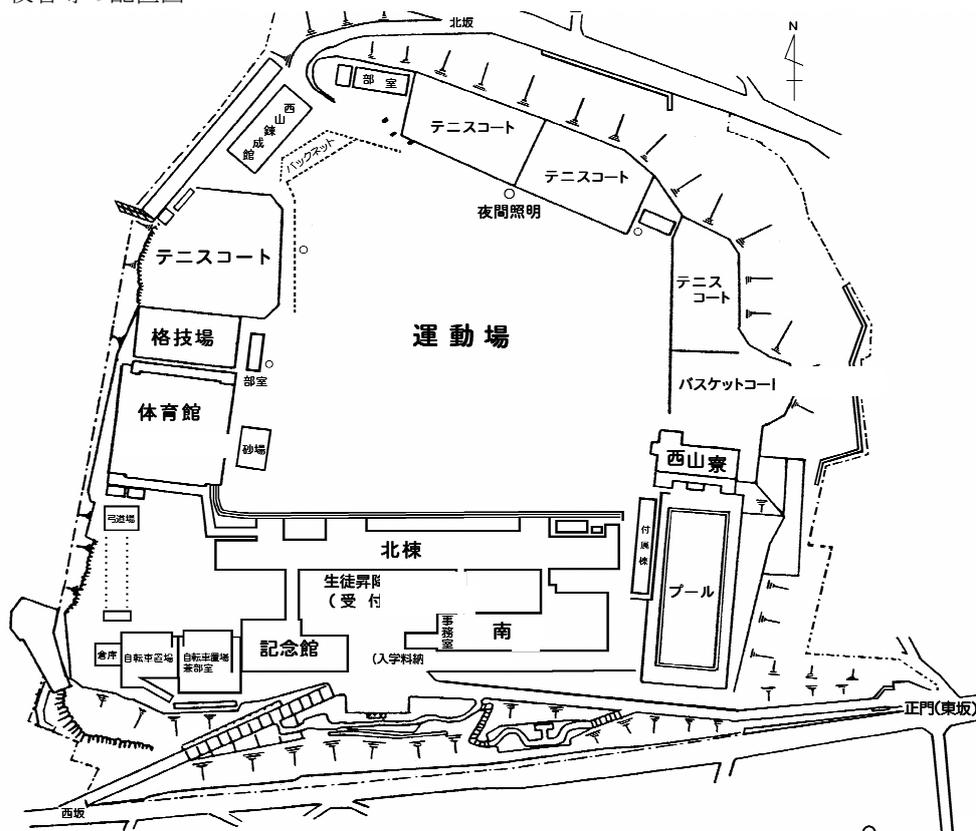
1 面積及び所有区分

(令和7年9月30日現在)

区分	面積 m ²	所有内訳					摘要
		県有 m ²	国有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学校敷地	54,396.98	54,003.31				393.67	
内訳	校舎敷地	13,233.57	13,233.57				
	運動場敷地	23,898.27	23,898.27				
	その他の敷地	17,265.14	16,871.47			393.67	
校舎	建 3,204.80	建 3,204.80					
	延 9,546.83	延 9,546.83					
体育館	建 1,367.08	建 1,367.08					
	延 1,709.46	延 1,709.46					
武道場	建 607.63	建 607.63					
	延 508.33	延 508.33					
その他の建物	建 2,058.81	建 1,807.41			建 251.40		
	延 2,869.22	延 2,617.82			延 251.40		
生活館	建 282.85	建 282.85					
	延 821.49	延 821.49					
プール	800.00	800.00					16.0×50m
職員住宅	-	-					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	37,131.84 m ²	9,546.83 m ²	23,898.27 m ²
県平均	45,574.48 m ²	9,782.41 m ²	22,506.84 m ²

□□□□□□□□

在籍生徒調

(令和7年9月30日現在)

学年	学科別 区分		普通科			
			定員	男子	女子	計
1年	入学者		140	74	66	140
		増加				
		減少		1		1
	現在			73	66	139
2年	入学者		140	60	79	139
		増加		1		1
		減少		1	1	2
	2年時当初			60	78	138
		増加				
		減少				
現在			60	78	138	
3年	入学者		140	70	70	140
		増加		1		1
		減少		1		1
	2年時当初			70	70	140
		増加				
		減少		1		1
	3年時当初			69	70	139
		増加				
減少						
現在			69	70	139	
合 計				202	214	416

□□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
生徒定員(A)		160	160	140	140	140
募集者数(B)		160	160	140	140	140
志願者数	男	191	155	209	174	175
	女	205	195	169	201	133
	計(C)	396	350	378	375	308
受検者数	男	190	154	208	174	175
	女	205	195	169	201	133
	計(D)	395	349	377	375	308
合格者数	男	69	63	69	61	74
	女	91	97	71	79	66
	計(E)	160	160	140	140	140
志願倍率(C)/(B)		2.48	2.19	2.70	2.68	2.20
受検倍率(D)/(B)		2.47	2.18	2.69	2.68	2.20
入学者数	男	69	64	70	60	74
	女	91	96	70	79	66
	計(F)	160	160	140	139	140
充足率(F)/(A)		1.00	1.00	1.00	0.99	1.00

□□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年9月30日現在) (単位：人)

市町名	浜松市	磐田市	湖西市	袋井市	掛川市	その他	合計
生徒数	348	34	14	9	5	6	416
構成比%	83.6%	8.2%	3.4%	2.2%	1.2%	1.4%	100%

(2) 通学方法 (令和7年9月30日現在) (単位：人)

区分	徒歩	バス	遠鉄電車	J R	合計
生徒数	60	193	88	75	416
構成比%	14.4%	46.4%	21.2%	18.0%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年9月30日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		12	6		18
男子	1年	52	13	8	73
	2年	43	13	4	60
	3年	54	13	2	69
	計(A)	149	39	14	202
	構成比	73.8%	19.3%	6.9%	100%
女子	1年	24	31	11	66
	2年	31	39	8	78
	3年	22	35	13	70
	計(B)	77	105	32	214
	構成比	36.0%	49.1%	14.9%	100%
合計	(A+B)	226	144	46	416
	構成比	54.3%	34.6%	11.1%	100%

□□□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和6年度	令和7年度（令和7年9月30日現在）
	件 数	件 数
入学検定料	1	0

□□□□□□

預 金 調

(令和7年9月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行成子支店	無利息型 普通預金	0367667	静岡県立浜松西高等学校中等部 資金前渡者 中村 泰子	0	給与法定外控除分の入出金
静岡銀行成子支店	無利息型 普通預金	0369469	(自振口) 静岡県立浜松西高等学校中等部 資金前渡者 中村 泰子	0	後納郵便料金等 自動引落とし口座
残 高 合 計				0	

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額（円）		
					5年度	6年度	左のうち、 5年度からの 繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費		0	
計					14,537	0	0
(14) 工事請負費						0	
計					0	0	0
(16) 公的財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費		676,500	
計					287,100	676,500	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費		0	
計					47,080	0	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年9月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額（円）	
						うち、6年 度からの繰 越額分
(12) 委託料					0	0
計					0	0
(14) 工事請負費					0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助及び 交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校 管理費	0	0
計					0	0
(21) 補償、補填及び 賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和7年9月30日現在)

整理 番号	区分		品 名・規 格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	1-13	冷蔵(凍)庫	牛乳保冷庫 FUKUSIMA EMW-024RM-N	牛乳保管用 毎日	平成14年3月	円 724,500
2	2-1	パーソナルコンピュータ (一式)	パソコン教室用機器 ノートパソコン 外	パソコン授業用 年230日	平成27年3月	623,700
3	6-9	木工用機械	丸のこ盤 トップマンTM-350	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	498,750
4	50-1	第1種図書	第1種図書 教師用指導書	英語科授業用 年230日	令和7年3月	389,400
5	6-9	木工用機械	角のみ盤 トップマンHC-16-MD	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	362,250
6	6-9	木工用機械	角のみ盤 トップマンHC-16-MD	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	362,250
7	4-2	機能検査機器	機能検査機器 YAM-5N JQA検査合格証付	生徒健康検査用 年1日	令和6年2月	287,100
8	4-2	機能検査機器	機能検査機器 YAM-5N JQA検査合格証付	生徒健康検査用 年1日	令和7年2月	287,100
9	1-4	戸棚	工具戸棚 教文35-5823 AF-1	技術科教材 保管用 常設	平成14年3月	261,450
10	10-12	バレー用器具	バレーボール支柱 ミス79SV-400 グラスファ	体育授業用 年30日	平成14年7月	258,300
11	6-9	木工用機械	集じん機 ムラコシ HM-2000	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	236,250
12	2-1	電算組織用媒体	パソコンソフト デジタル教科書 新しい社会	社会科授業用 年230日	平成28年4月	216,000
13	6-2	金属加工工作機器	ベルトグラインダ 淀川 FS20N	技術科実習用 年18時間	平成14年3月	212,100

職 員 調

(令和6年8月31日 現在)
(令和7年9月30日 現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
	校 長	中 村 泰 子		□□□	□□□□	□□□□
1	教 頭	高 橋 智		□□□	□□□□	□□□□
	事 務 長	古 知 純 子		□□□	□□□□	□□□□
2	教 諭	山 下 美 帆	音 楽	□□□	□□□□	□□□□
3	教 諭	加 藤 忠 伸	外 国 語	□□□	□□□□	□□□□
4	教 諭	高 柳 司	数 学	□□□	□□□□	□□□□
5	教 諭	伊 藤 み な み	数 学	□□□	□□□□	□□□□
6	教 諭	辻 村 篤 史	社 会	□□□	□□□□	□□□□
7	教 諭	前 嶋 慎 也	社 会	□□□	□□□□	□□□□
8	教 諭	山 本 哲 史	数 学	□□□	□□□□	□□□□
9	教 諭	高 林 永	外 国 語	□□□	□□□□	□□□□
10	教 諭	恩 田 皓 充	外 国 語	□□□	□□□□	□□□□
11	教 諭	齋 藤 祐 輝	国 語	□□□	□□□□	□□□□
12	教 諭	山 下 悟	外 国 語	□□□	□□□□	□□□□
13	教 諭	石 濱 麻 衣	理 科	□□□	□□□□	□□□□
14	教 諭	渡 邊 諒	保 健 体 育	□□□	□□□□	□□□□
15	教 諭	渡 仲 祥 太	数 学	□□□	□□□□	□□□□
16	教 諭	内 山 朝 史	国 語	□□□	□□□□	□□□□
17	教 諭	加 茂 杏 奈	国 語	□□□	□□□□	□□□□
18	教 諭	砺 波 雄 介	理 科	□□□	□□□□	□□□□
19	教 諭	木 下 敬 太	数 学	□□□	□□□□	□□□□
20	教 諭	福 永 将	保 健 体 育	□□□	□□□□	□□□□
21	教 諭	大 高 裕 輝	技 術	□□□	□□□□	□□□□
22	教 諭	井 村 凌 聖	外 国 語	□□□	□□□□	□□□□
23	養 護 教 諭	浅 野 慶 子		□□□	□□□□	□□□□
24	主 事	沼 野 更 紗		□□□	□□□□	□□□□
平 均 年 数					2 年 6 月	

職 員 調

(令和6年8月31日 現在)
(令和 7年9月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
	教諭	菅 龍之介	芸術(音楽)	□□□	□□□□	□□□□
	教諭	上西 智紀	理科	□□□	□□□□	□□□□
	教諭	齋藤 真弓	理科	□□□	□□□□	□□□□
	教諭	渥美 文宏	保健体育	□□□	□□□□	□□□□
	教諭	平野 聡	保健体育	□□□	□□□□	□□□□
	教諭	渡邊 公登	社会	□□□	□□□□	□□□□
	教諭	小澤 智子	家庭	□□□	□□□□	□□□□
	主幹	岡本 直子	庶務会計	□□□	□□□□	□□□□
	主査	山下 真粧美	会計庶務	□□□	□□□□	□□□□
	主査	大塚 美保	庶務会計	□□□	□□□□	□□□□
	主任	中村 肇孝	管財会計	□□□	□□□□	□□□□
1	非常勤講師	坂口 英美代	芸術(美術)	□□□	□□□□	□□□□
2	非常勤講師	小杉 よし子	家庭	□□□	□□□□	□□□□
3	非常勤講師	佐藤 知佳	芸術(美術)	□□□	□□□□	□□□□
4	<small>スクール・サポート・スタッフ</small>	三善 富樹子	事務	□□□	□□□□	□□□□
5	部活動指導員	小瀬 英樹	陸上競技部	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	山口 学	内科	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	兼子 周一	眼科	□□□	□□□□	□□□□
	学校医	伊藤 光成	耳鼻科	□□□	□□□□	□□□□
	学校歯科医	中野 宗一	歯科	□□□	□□□□	□□□□
	学校歯科医	内田 晃平	歯科	□□□	□□□□	□□□□
	学校薬剤師	沖田 佳子	薬剤師	□□□	□□□□	□□□□

□□□□□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和6年8月31日 現在)

(令和7年9月30日 現在)

年 齢	人 員	備 考
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	2	
30歳以上40歳未満	14	
40歳以上50歳未満	5	
50歳以上56歳未満	2	
56歳以上61歳未満	1	
61歳以上	0	
計	24	平均年齢 38 歳 11 月

□□□□□□□□

健 康 管 理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 24人 <hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> 職員数 24人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ正常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務で良い。	要 治 療	4 人 (4)
D 2		要経過観察	5 人 (5)
D 3		医 療 不 要	15 人 (15)
区 分 者 計			24 人 (24)
未 区 分 者 数			0 人
合 計			24 人 (24)

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

- ア 産休・育休 0 人
- イ 新規採用 0 人
- ウ 自己都合による未受診 0 人
- エ その他 0 人